

秋田焼山

○概況

新たな噴気活動の目撃情報がありましたが、調査の結果、火山活動に特段の変化があったことを示すものではないと考えられます。

現地調査の結果

6月22日夕方に、西側山腹の叫沢(さけびざわ)の従来から噴気活動の見られた場所の周辺で、新たな噴気が見つかったとの通報がありました。6月23日朝に秋田県が実施した上空からの調査で、これまで噴気が出ていなかった場所で高さ数十mの白煙が確認されました。

このため、6月24日に上空からの観測¹⁾と現地調査²⁾を行い、割れ目の中で硫黄が燃焼して、そこから高さ5～6mの白煙が上がっているのを確認しました。また、出口付近では277℃の高温部が確認されました。

その後、6月25日及び6月30日に実施した現地調査²⁾では、白煙及び硫黄の燃焼は認められず、温度も低下して、6月30日には通常の地表面温度とほぼ同じでした。

今回の現象は極めて局所的なものであり、短期間で終息していることから、秋田焼山の火山活動に特段の変化があったことを示すものではないと考えられます。

1) 東北地方整備局と仙台管区気象台が共同で実施。2) 仙台管区気象台及び秋田地方気象台による。



図1 秋田焼山西側山腹叫沢周辺の地形図



図2 6/23 秋田県防災ヘリによる撮影(秋田県提供)

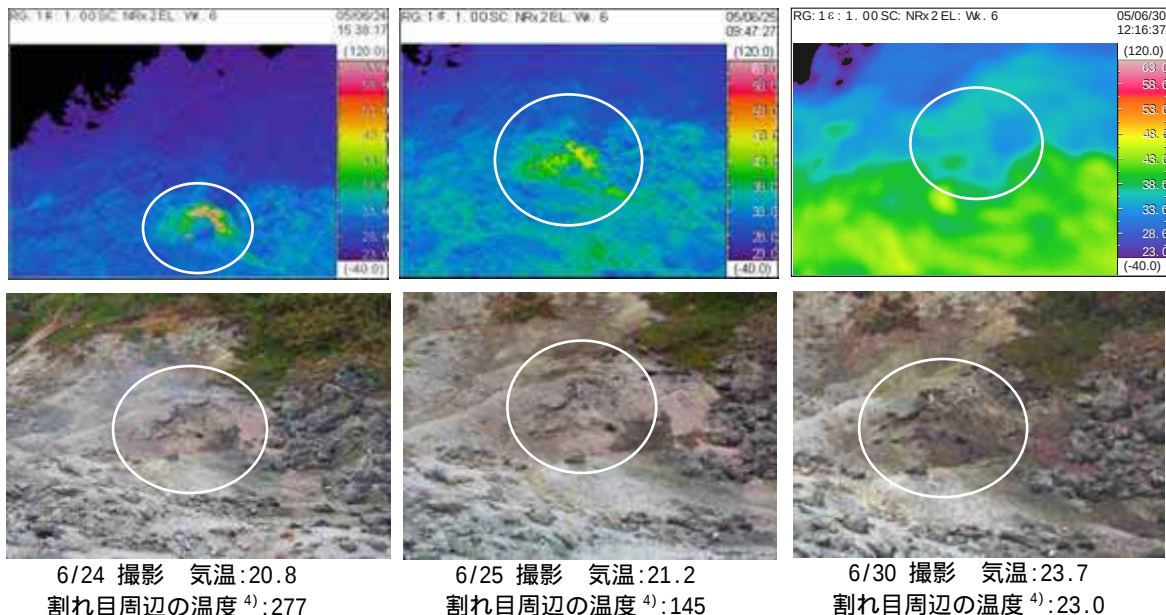


図3 上段が熱赤外映像³⁾。下段が可視映像。白煙が上がっていた場所を○印で示す。

熱赤外映像³⁾には、一部に日射の影響による高温部が見られる。

3) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

4) サーミスタ温度計で測定。サーミスタ温度計は、センサーを直接熱源に当てて温度を測定する機器である。